

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24330039

研究課題名(和文)ルソーと現代デモクラシー

研究課題名(英文)Jean-Jacques Rousseau and Contemporary Democracy

## 研究代表者

川出 良枝(KAWADE, Yoshie)

東京大学・法学(政治学)研究科(研究院)・教授

研究者番号：10265481

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,600,000円

研究成果の概要(和文)：ルソーの政治哲学の現代デモクラシーに対してもつ意義を、彼の熟議と参加、戦争と平和、小共和国と国家連合、市民宗教、商業社会についての観念を分析することにより明らかにした。また、バークやディドロやベンサム、またアダム・スミスなど、ルソーを批判した論者の議論との比較も行った。フランスやスイスから研究者を招聘し、国際研究集会やセミナーを開催し、『ルソーと近代』という論文集を刊行した。

研究成果の概要(英文)：The project clarified the significance of Jean-Jacques Rousseau's political philosophy for contemporary democracy by investigating his ideas on participation and deliberation, war and peace, small republics and confederations, and civil religion and commercial society. It also compared his ideas with those who were opposed to him, such as Denis Diderot, Jeremy Bentham, Adam Smith and Edmund Burke. We organized an international conference and several seminars on Rousseau, inviting scholars from France and Switzerland, and we published the collected work entitled "Rousseau and the Modernity".

研究分野：政治学

キーワード：政治思想史 ルソー デモクラシー 政治哲学 フランス 国際研究交流 国際情報交換

### 1. 研究開始当初の背景

制度としてのデモクラシーが確立したとしても、それを実際に運用するにあたって、しばしば意見の分かれる局面が発生する。たとえば、多数決か少数意見の尊重か、迅速な集団的意思決定か時間をかけた熟議か、代表による政治か直接参加か、国民の間のコンセンサスか多様性かなど、がその例であろう。こうした様々な問題を考えるに当たって、代表制民主主義に対する強力なオルタナティブとなるデモクラシー・モデルを提供したジャン＝ジャック・ルソーの政治哲学を批判的に再検討することは大きな意義をもつと考え、共同研究を組織するに至った。

### 2. 研究の目的

18世紀フランスの思想家ルソーは、直接参加の重要性、討議と合意の関係の探求、国民国家の代替物としての小国連合の模索、公共の利益の重視、宗教による市民の道徳化といった要素からなる斬新なデモクラシー・モデルを提起した。その議論は今日の自由民主主義体制に対する強力な代替理論となりうる可能性を秘める。他方、ルソーは文明批判や古代ギリシア・ローマへの憧憬でも知られており、そのデモクラシー・モデルが果たして近代の社会条件に適用可能なものなのか、という疑問も常に投げかけられてきた。その意味で、ルソーのデモクラシー論を再評価するには、ルソーと近代という問題をあわせて検討する必要がある。本研究は、国内の代表的なルソーおよびフランス政治思想研究者、欧米の海外共同研究者を組織し、ルソーの政治論のもつ現代的意義を総合的に明らかにすることを目的とするものである。

### 3. 研究の方法

本研究は国内の代表的なルソーおよびフランス政治思想研究者、欧米の海外共同研究者を組織し、3つのアプローチ(規範的政治理論的分析、文献学的・思想史的方法による分析、ルソーの批判者の議論との比較分析)を組み合わせることによって、彼のデモクラシー論のもつ現代的意義を明らかにすることを目的とする。研究の中核はルソー研究会であり、科研のメンバーの他、広くルソーや政治思想に関心をもつ参加者を集めた。

具体的には、ルソー読解班、ルソー批判班、現代デモクラシー班の三つの下部組織を編成し、それぞれに属する分担者が独自の研究を進めつつ、全員が参加する共同の場であるルソー研究会においてそれぞれの成果を共有するという方法をとった。代表者の川出はそのすべてを総括した。研究の国際化を進めるため、国際シンポジウムの開催の他、ルソー研究会には毎年1～2名のフランスからの研究者を招聘した。また、英語・フランス語での学会報告・論文刊行を積極的に推進した。

### 4. 研究成果

3年間の共同研究にくわえ、さらに一年間延長し全体で4年をかけておこなった研究の成果は以下の通りである。

(1)平成24年度は、統一テーマとして「参加と討議」を設定し、研究を開始した。

初年度の最大の成果は、9月に東京で開催されたルソー生誕300周年記念国際シンポジウムであり、ルソーの政治理論についてのセッションを複数設け、川出・三浦・永見・鳴子がそこで研究を発表した。シンポのために来日したフランスの研究協力者(Spitz, Bachofen, Serna, Séité等)と議論を深めることも出来た。

ルソー研究会ではアレントとルソーの比較など、先端的な研究発表がおこなわれた。とりわけ重要な機会は、1月に来日したルソー政治哲学研究者のB. Bernardi氏による東大・中央大その他で開催された連続セミナーであった。氏との間で緻密な議論ができ、今後の研究の方向性が定まった。特に、ルソーの世論の観念を一般意志の観念と区別する必要があること、制度的には民主的な国家が対外的には戦争により他国の市民の権利の侵害に至ることをルソーが厳しく批判していたこと、若き日のルソーが化学に熱心にとりこんでいたこと、などが共通の了解となった。

永見・鳴子はルソー論を刊行し、川出はルソーの邦訳に解題をつけ、刊行した。

(2)平成25年度は、統一テーマとして「小国連合(連邦主義)」を設定し、引き続き、ルソー研究会を中心とした活動をおこなった。

平成24年に東京で開催した国際シンポジウム「ルソーと近代」は、代表者川出の他、分担者三浦・永見・鳴子が中心となって推進したものであるが、これを基盤とし、新たに論文集を刊行することが決定し、そのための準備作業を行った。この4名の他、リュエフ、ベルシュルド、小林善彦等代表的なルソー研究者、パコフェン、スピッツ、ワーテルロー等、フランスの政治・社会思想の研究者、渡辺浩(日本政治思想史)、樋口陽一(憲法学)など多彩な分野の研究者から協力を得て、相互に協力しつつ、論文集刊行に向けて研究をおこなった。

Bernardi氏の一連の報告を邦訳し、川出・三浦・永見氏が翻訳し、さらに解説も書き下ろし刊行した(ブリュノ・ベルナルディ『ジャン＝ジャック・ルソーの政治哲学 一般意志・人民主権・共和国』)。

ロマン主義の観点からルソーを考察すると共に、19世紀の社会主義思想についても独自の研究を推進したヴィアール教授を招聘し、東大等で連続セミナーを開催した。

宇野は現代デモクラシーについて、小畑はベンサムとイングランド国制についてそれぞれ著書を刊行し、他のメンバーも精力的に学会発表・論文刊行をおこなった

(3) 平成 26 年度は、統一テーマとして「公共の利益」「政治と宗教」を設定し、個別の研究を深め、またこれまでの研究成果を総合した。

特筆すべき成果として、科研費プロジェクトを総括するものとして、平成 24 年の国際シンポジウムを元にした論文集『ルソーと近代 - ルソーの回帰・ルソーへの回帰 (ジャン=ジャック・ルソー生誕 300 周年記念国際シンポジウム)』を刊行した。川出・三浦・永見が編集に当たり、またそれぞれ論文を寄稿した。研究分担者の鳴子も寄稿している。フランス・スイスの研究者を含む総勢 25 名の寄稿者からなる本書の出版は本科研費プロジェクトの最大の成果の一つである。同書によって明らかになった新しいルソー像は、代表者の川出の見るどころ以下のようなものである。ルソーとは、文明に背を向け、近代を批判したといった短絡的な見方におさまらない、複雑な位相をもつ政治理論家であった。なるほど、ルソーは、同時代の批判者の考える近代、また、近代の商業社会や主権を独占する国民国家を基礎とし、それゆえに代表制を中核とせざるを得ない近代のデモクラシーについてはラディカルな批判者であった。しかし、同時にルソーは、連邦制の構想による新しい主権のあり方、既存のキリスト教とは異なる新しい宗教の可能性、古代のそれとは一線を画す新しい公共性の形などについて真剣な模索を重ね、それによって、ルソーは同時代の他の論者とは異なる独自の「近代」を構想したのである。とりわけ、小国連合によるデモクラシーの実践という観点は、連邦制や EU のような国家統合に際しての望ましい主権の分有のあり方を考える際にきわめて示唆的である。

ルソーはまた、リスボン地震に対し、それが「人災」の側面が強いことを主張し、また、むしろ有用性の観点から、近代の科学に積極的に関心をはらったことが判明した。ルソーの「人為」に対する透徹した見方が、古代とは異なる条件をもつ近代国家において、デモクラシーを実現するためのこまかな制度立案につながったことも明らかになった。この点に関して、ルソーがジュネーヴ共和国を重要なモデルとしていたことが確認できた。さらに、ルソーの議論における近代性の特徴は、ディドロ・ヴォルテール・ベンサム・トクヴィルなど、ルソーの批判者たちと比較したとき、より鮮明に明らかになった。

フランスの政治思想研究者のセリーヌ・スペクトールおよびガブリエル・ラディカを招聘し、中央大学・東京大学などで連続セミナーを開催した。いずれの場合も、ルソーおよび現代政治理論の観点から見たルソーのデモクラシー論の意義や限界(特に家族との関係におけるルソーの議論の難点)について、明らかになった。

(4) 3 年間の大規模な共同研究により、ルソーのデモクラシー論の特質に新たな光があてられたが、それをふまえて、二つの新たな課題が発生し、そのために川出は、平成 27 年度に小規模な単独研究というかたちで研究を継続した。

ルソーの批判者とルソーの関係について、さらなる見直しの必要が生じた。特に、ルソーが単純な反文明の政治理論家ではないということが確認された以上、アダム・スミスとルソーの比較という課題がきわめて重要になった。とりわけ、両者が人間の自然的社会性を否定した点で共通することの意義が確認された。

ルソーと近代の多層的な関係は、第二次世界大戦後における日本におけるルソー受容と密接に関わることが明らかになった。戦後の日本では、近代デモクラシーの定礎者としてのルソーと「自然にかえれ」を唱えた反近代の理論家としてのルソーという背反するイメージが流布したが、こうした分裂したイメージを生み出したのが、本研究で明らかにしたルソー独自の「近代」観であったと結論づけることができよう。

以上のように、ルソーと近代の関係についての徹底した検討の上に、ルソーがいかなる条件の下で直接参加型のデモクラシー・モデルを構想するにいたったかを明らかにすることができた。とりわけ、小国連合による主権の分有の構想、新しい公共性を担保する宗教の限界と可能性、また健全な世論形成の方策などは、現代デモクラシーの今後の方向性を考える上で、重要な意義をもつものと言えよう。日仏のトップレベルのルソー研究者による綿密な共同研究であり、いくつかの主要な成果については英仏語で報告・刊行し、広く世界に発信した。今後も、成果の全貌を国外に発信する努力を続けたい。他方、日本におけるルソー受容の特質も明らかにした。こうした特徴をもつ本研究は国際的にみても、オリジナルで先進的な研究成果となっているものと考えられる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 23 件)

Yoshie Kawade, "Le retour à la nature: la réception de Jean-Jacques Rousseau au Japon après la Seconde Guerre Mondiale" (『日仏文化』, 2015, 228-233) (査読なし)

川出良枝「自由社会にとっての試金石」(『ふらんす特別編集シャルリ・エブド事件を考える』, 2015, 白水社, 82-84) (査読なし)

Yoshie Kawade, "From love of humanity to peace through commerce: The cosmopolitan ideal in eighteenth-century France", *University of Tokyo Journal of Law and*

*Politics*, Vol. 11, Winter 2014, 30-40(査読あり)

川出良枝「公共の利益のための学問」(『政治思想研究』第14号, 2014, 82-109)(査読なし)

川出良枝「リスボン地震後の知の変容」(『別冊アステイオン「災後」の文明』(阪急コミュニケーションズ, 2014, 131-151)(査読なし)

井柳美紀「ルソーにおける政治と教育-市民の徳と共同体」(『静岡大学法政研究』第18巻3・4号2014, 391-412)(査読なし)

Yoshie Kawade, "Rousseau between France and Geneva: A brief sketch of the celebratory year of the 300th anniversary of the philosopher's birth", *University of Tokyo Journal of Law and Politics*, Vol. 10, Spring 2013, 98-102. (査読あり)

Nobutaka MIURA, "Intellectuels francophones du Japon moderne et contemporain: Nakae Chōmin (1847-1901) et Katō Shūichi (1919-2008)", *La lettre du Collège de France*, 36 mai, 2013, 40-41. (査読なし)

小畑俊太郎「ベンサムにおけるデモクラシーと官僚制」(『年報政治学 2013 - 』2013, 2013, 279-297. (査読あり)

川出良枝「ルソーと祖国」(『ふらんす』6月号, 2012, 17-18)(査読なし)

小林淑憲「ルソーの代表制批判とジュネーヴ共和国」『北海学園大学経済論集』60号4号, 2013, 61-74. (査読なし)

〔学会発表〕(計 23件)

Yoshie Kawade, "Le retour à la nature: la réception de Jean-Jacques Rousseau au Japon après la Seconde Guerre Mondiale", Colloque "L'Avenir des échanges franco-japonais en sciences humaines et sociales", le 7 Juin, 2014, MCJP (Maison de la culture du Japon à Paris) (パリ(フランス))

川出良枝「政治哲学」(科研シンポジウム「加藤信朗哲学の再検討」2014年7月12日慶應義塾大学(東京都港区))

Shuntaro Obata, "Public Opinion and Delusion: Bentham on Representative Democracy", *International Society for Utilitarian Studies*, 2014年8月23日, 横浜国立大学(神奈川県横浜市)

鳴子博子「戦争と女性 ルソーの差異論-国家論の再検討を通して」(日仏女性研究学会(2014年7月12日)日仏会館(東京都渋谷区))

川出良枝「公共の利益のための学問 ルソーとフィジオクラート」(政治思想学会, 2013年5月25日, 慶應義塾大学(東京都港区))

川出良枝「リスボンの震災をめぐるヴォルテールとルソーの対立」(パネル・ディスカ

ッション「1755年11月1日, リスボン地震その思想的意味」, 2013年10月26日(土)一橋大学(東京都国立市))

小林淑憲「ルソーの代表制批判・再考」(日本政治学会研究大会, 2013年9月15日, 北海学園大学(北海道札幌市))

Yoshie Kawade, "From Love of Mankind to Peace through Commerce: The Cosmopolitan Ideal in Eighteenth-Century France" (International Conference: French Political Economy in the Age of Enlightenment: Perspectives on Social Reform before the Revolution, September 8, 2012, Rikkyo University (東京都豊島区))

Yoshie Kawade, "Rousseau et l'idée de confédération: un médiateur entre cosmopolitisme et patriotisme?" (ジャン・ジャック・ルソー生誕300周年記念国際シンポジウム「ルソーと近代 ルソーの回帰、ルソーへの回帰」2012年9月15日日仏会館(東京都渋谷区))

永見文雄「ルソーは自己充足という古い観念の継承者か?」(ジャン・ジャック・ルソー生誕300周年記念国際シンポジウム「ルソーと近代 ルソーの回帰、ルソーへの回帰」2012年9月15日日仏会館(東京都渋谷区))

三浦信孝「ジュネーヴ市民における祖国愛の逆説」(ジャン・ジャック・ルソー生誕300周年記念国際シンポジウム「ルソーと近代 ルソーの回帰、ルソーへの回帰」2012年9月15日日仏会館(東京都渋谷区))

鳴子博子「フランス革命と明治維新 ルソーの「国家創設」論からの比較考察」(ジャン・ジャック・ルソー生誕300周年記念国際シンポジウム「ルソーと近代 ルソーの回帰、ルソーへの回帰」2012年9月14日中央大学駿河台記念館(東京都千代田区))

〔図書〕(計 35件)

川出良枝「平和なる共生のための政治哲学に向けて 初期近代における相互的仁愛論の可能性」(『内在と超越の闘 加藤信朗米寿記念哲学論文集』土橋茂樹・納富信留・栗原裕次・金澤修編, 知泉書館, 2015, 211-245(総頁数289頁))

永見文雄・三浦信孝・川出良枝(編著)『ルソーと近代 - ルソーの回帰・ルソーへの回帰 (ジャン=ジャック・ルソー生誕300周年記念国際シンポジウム)』風行社, 2014, 総頁数426頁

川出良枝「ルソーと「連合」構想 パトリオティズムとコスモポリタニズムをつなぐもの」(永見文雄・三浦信孝・川出良枝編著『ルソーと近代 ルソーの回帰・ルソーへの回帰』, 風行社, 2014, 260-272)

三浦信孝「『ジュネーヴ市民』ルソーにおける祖国愛の逆説」(永見文雄・三浦信孝・川出良枝編著『ルソーと近代 ルソーの回帰・ルソーへの回帰』, 風行社, 2014, 191-211)

永見文雄「ルソーは自己充足という古い觀念の継承者か？」(永見文雄・三浦信孝・川出良枝編著『ルソーと近代 ルソーの回帰・ルソーへの回帰』, 風行社, 2014, 25-38)

鳴子博子「フランス革命と明治維新 ルソーの「国家創設」論からの比較考察」(永見文雄・三浦信孝・川出良枝編著『ルソーと近代 ルソーの回帰・ルソーへの回帰』, 風行社, 2014, 306-320)

ブリュノ・ベルナルディ(三浦信孝・永見文雄・川出良枝他 5名の共訳・解説)『ジャン=ジャック・ルソーの政治哲学 一般意志・人民主権・共和国』, 勁草書房, 2014, 総頁数 223 頁

川出良枝(編著)『岩波講座政治哲学 1 主権と自由』岩波書店, 2014 総頁数 254 頁

川出良枝「ボダン 政体論と主権論」(川出良枝編『岩波講座政治哲学 1 主権と自由』岩波書店, 2014, 97-122)

井柳美紀「デスポティズムと反デスポティズム—絶対君主政下における権力と自由」(川出良枝編『岩波講座政治哲学 1 主権と自由』岩波書店, 2014, 219-237)

宇野重規(編著)『岩波講座政治哲学 3 近代の変容』岩波書店, 2014, 総頁数 245 頁

宇野重規「プラグマティズム—習慣・経験・民主主義」(宇野重規(編著)『岩波講座政治哲学 3 近代の変容』岩波書店, 2014, 177-199)

Reiji Matsumoto, "Tocqueville and "Democracy in Japan" in Tocqueville's Voyages: The Evolution of His Ideas and Their Journey Beyond His Time (ed. by Christine Dunn Henderson), Liberty Fund, 2014, 425-455 (総頁数 475 頁)

宇野重規『民主主義の作り方』筑摩書房, 2013, 総頁数 218 頁

小畑俊太郎『ベンサムとイングランド国制 国家・教会・世論』, 慶應義塾大学出版会, 2013, 総頁数 321 頁

永見文雄『ジャン=ジャック・ルソー 自己充足の哲学』勁草書房, 2012, 総頁数 630 頁

鳴子博子『ルソーと現代政治 正義・民意・ジェンダー・権力』ヒルトップ出版, 2012, 総頁数 192 頁.

川出良枝「人間の共同性をめぐる根源的問いかけ」(ジャン=ジャック・ルソー『起源』白水社, 2012, 245-257(総頁数 257 頁)

川出良枝「悪に抗する人間 文明・震災・戦争」(ジャン=ジャック・ルソー『文明』白水社, 2012, 315-325(総頁数 257 頁)

川出良枝「一国をどのように改革するか 政治の現場におけるルソー」(ジャン=ジャック・ルソー『政治』白水社, 2012, 237-251(総頁数 251 頁)

## (1)研究代表者

川出良枝 (KAWADE, Yoshie)  
東京大学大学院法学政治学研究科・教授  
研究者番号: 10265481

## (2)研究分担者

永見文雄 (NAGAMI, Fumio)  
中央大学文学部・教授  
研究者番号: 80114594

三浦信孝 (MIURA, Nobutaka)  
中央大学文学部・教授  
研究者番号: 10135238

松本礼二 (MATSUMOTO, Reiji)  
早稲田大学大学教育・総合科学学術院・教授  
研究者番号: 30013022

吉岡知哉 (YOSHIOKA, Tomoya)  
立教大学法学部政治学科・教授  
研究者番号: 90107491

宇野重規 (UNO, Shigeki)  
東京大学社会科学研究所・教授  
研究者番号: 00292657

井柳美紀 (IYANAGI, Miki)  
静岡大学人文学部法学科・准教授  
研究者番号: 50420055

小林淑憲 (KOBAYASHI, Yoshinori)  
北海学園大学大学院経済学研究科・教授  
研究者番号: 70275006

鳴子博子 (NARUKO, Hiroko)  
中央大学経済学部・准教授  
研究者番号: 00586480

小畑俊太郎 (OBATA, Shuntaro)  
成蹊大学法学部・助教  
研究者番号: 80423820